



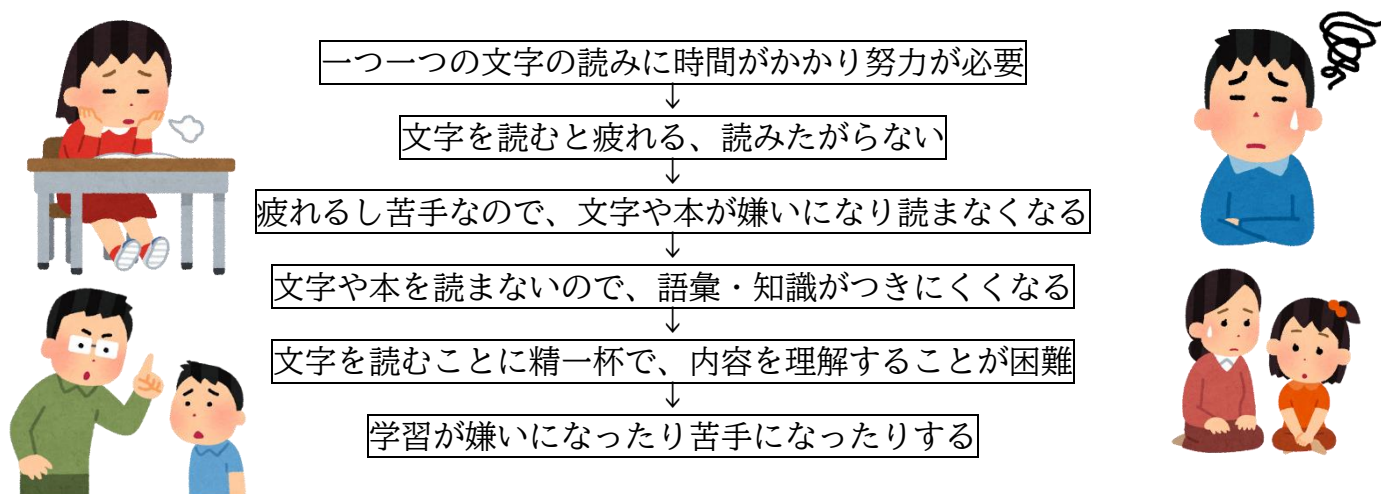
ことばとこころ 158号

令和8年2月

村上市ことばとこころの相談室

学習障害（限局性学習症）について理解しましょう

学習障害ということばを聞いてどのようなお子さんをイメージするでしょうか。保護者であれば、「勉強が苦手」というイメージをもたれるかもしれません。文部科学省の定義では、学習障害とは、「全般的に知的発達に遅れはないが、聞く、話す、読む、書く、計算する、推論する能力に困難さがある」ことを言います。学習に関することですから、小学校入学後に明らかになりやすい困難さです。例えば、読むことに困難さがあると、以下のような過程で学習不振になる場合があります。



他の子どもと同じように努力しているのになかなか成果が上がらない場合には、周りの大人が子どもの学習の様子や困り感をよく見てやり、子どもがやる気を失わないように配慮しながら、担任の先生や相談機関、医療機関などに相談したりするとよいと思われます。早めの相談や支援が自信喪失を防いだり、子どもの力を伸ばしたりすることにつながります。

就学前の子どもには、文字やことば、かずなどを無意識のうちに身に付けられる遊びや、人とのかかわりを育てる遊びが大切です。また、体を大きく使う遊びや作って楽しむ遊びなどもよいと言われています。詳しくは裏面に掲載しましたが、子どもと一緒に遊んだり活動したりする中で、学ぶ力や人と関わる力、生活する力、自立する力などを育てていくとよいと思われます。

（参考文献 「発達が気になる子どもが小児科の専門外来を受診するとき」 柏木充著）

村上市の図書館には学習障害に関係する本がたくさん置いてあります。近刊のものをいくつか載せておきますので、手に取って見てみてはいかがでしょうか。

- 「算数障害がわかる本」講談社 2025 年
- 「学習障害がわかる本」講談社 2024 年
- 「LDの子が見つけたこんな勉強法」合同出版 2023 年
- 「発達障害のおはなし 3 学習障害のおはなし」平凡社 2021 年

小学校に入学し教科の学習が始まると、学習面での問題が徐々にみえてくることがあります。就学後の不安や困り感を少なくするためには、日々のかかわりや働きかけが大切です。入学前のお子さんが学びの基盤となる力が身に付いているか確認するための目安をご紹介します。（発達には個人差があるのであくまで目安です）



入学前

こんなことができると自信がつきます



- 読む 自分の名前など身近なひらがなが読める。
絵本を読んだり、身の回りの文字に興味を持ったりする。
- 書く 自分の名前をひらがなで書ける。えんぴつやクレヨンを正しく持てる。
- 数 20 くらいまでの数を順番に数えられる。多い少ないがある程度分かる。
- 話す 自分が見たことやしたことを相手を意識して話せる。
- 聞く 人の話や読み聞かせなどをじっとして聞いていられる。

学習というよりも、日々の生活や遊びの中で自然と身につくように関わっていくことが大切です。また、運動面においても、小学校への登下校や5時間程度の授業などに対応できる体力も育てていけるとよいでしょう。



「遊び」は「学び」



子どもにとって「遊び」とは、楽しいだけでなく、脳や体の発達を促す効果があり、今後の学習に必要な力を育てる土台づくりとしても欠かせないものです。

近年は、遊びもタブレットやゲーム等に興味が行きがちですが、こうしたものがなくてもできる遊びをいくつか紹介します。

運動遊び かけっこ、なわとび、トランポリン、すべり台、ブランコ、ジャングルジムなど体を大きく使う遊びは体幹が育ち、姿勢を保ったり、体の動きを調整したりする力が身につく、それが集中力にもつながります。



パズルやカード遊び パズル、すごろく、かるた、トランプ、ブロックなど形や上下左右などの方向を見る力がついたり、くり返し遊ぶことで、手先を器用にしたり、目と手の協応作業力が身につきます。

塗り絵やお絵描き

鉛筆の持ち方や動かし方などが身につくだけでなく、見たものを描き写したり、イメージしたものを描いたりするなど、文字学習に入る前の基礎を育てます。

その他

お手伝いなど窓ふきや雑巾がけ、買い物の荷物持ちなど、手を使ったり負荷をかけたりすることで体幹を鍛えます。

